

授業概要

証券（有価証券）は債券と株式を指す。金融商品取引法では国債や地方債、社債、株式、投資信託の受益証券、貸付信託の受益証券などを指している。この『証券市場論』では「債券」を講義対象にする（「株式」については秋期の『経営財務Ⅱ』で講義する）。

債券は国や地方自治体、企業などが不特定多数の投資家から大きな額の資金調達する時に発行する「借用証券」。債券も株式も、もともとは紙に印刷された証券であった（現在は電子化され、パーパーレスでの取引が主流）。

講義は前半で債券の基礎専門知識を、後半で債券市場の仕組みと債券投資のリスクを講義する。最後に日本国債の歴史と国債残高、財政の現状、課題について講義する。

授業計画

第 1 回	債券（有価証券）の基礎知識： 資金調達としての債券、投資先（資金運用）としての債券
第 2 回	金利の役割と仕組み①： 金利の種類、長期金利と短期金利、単利と複利
第 3 回	金利の役割と仕組み②： 債権の金利と価格の関係
第 4 回	国債の種類： 発行根拠法則、②年限別（bill, note, bond）
第 5 回	地方債、政府保証債の種類
第 6 回	社債の種類
第 7 回	外債の種類
第 8 回	債権の分類
第 9 回	国債の発行から償還まで： 国債の発行手続き、入札、利子支払い、償還
第 10 回	社債の発行から償還まで： 格付け、債券取引に関わる税金、法律
第 11 回	債券市場の仕組み： 発行市場、流通市場、利回りでの売買、店頭取引と取引所取引
第 12 回	債券投資のリスク①： 金融商品の「リスク」とは
第 13 回	債券投資のリスク②： 価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、デフォルト
第 14 回	債券先物市場などデリバティブ取引
第 15 回	日本国債の歴史と現状、課題
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・債券の知識を身に付け、債券価格や金利といった経済ニュースや経済記事が理解できる。
- ・金融商品の「リスク」を客観的に捉えることが出来る。
- ・日本国債の課題（赤字国債、利払額、発行残高）を理解し、財政問題に対し自分で考えられることが出来る。

履修上の注意

・講義では毎回、新しい専門用語、経済の仕組み、考え方が出て来るので、じっくりと復習を行い、自分の用語、知識、知的ツールとして習得すること。春期開講の「経営財務論Ⅰ」（⇒数字、金利、銀行借入）、秋期開講の「経営財務Ⅱ」（⇒株式と株式会社、コーポレートファイナンス）の講義を履修済、もしくは並行して受講することが好ましい。

- ・授業の進捗状況、受講生の理解度、関心度に応じてシラバスの授業計画は変更する場合があります。

予習・復習

各回の授業では受講生にとって新しい金融専門用語や考え方、計算手法などが出てきます。講義終了後に配布したレジュメで十二分に復習して理解し、自分のもの、知的ツールにすることが肝要です。また図書館で証券関連の参考図書を探して、学習をより深めてください。

評価方法

学期末試験 80%、レポート 20%。詳細は授業で説明します。

テキスト

特になし。